



岩手県中学校
総合体育大会

男子バスケットボール
前評判通りの強さで
桜町が優勝

Pick-Up

「第60回岩手県中学校総合体育大会」は7月20日から22日まで県内各地で開かれた。

このうち一関市では、軟式野球とバスケットボールが行われ、県内の精鋭たちが熱い戦いを繰り広げた。

軟式野球には、千厩、一関一高附、花泉の3校が出場。第一代表の千厩は初戦で惜敗したが、一関一高附と花泉はそろってベスト8に進出する活躍で地元開催の大会を沸かせた。

バスケットボール女子は、萩荘、中里、一関の3校が出場したが、中里は初戦で、萩荘、一関は共に2回戦で敗退し、上位進出はならなかった。

一方男子は、桜町、萩荘、山目、大原の

4チームが出場。萩荘、山目、大原は惜しくも初戦で敗退したが、昨秋の新人大会、冬の選抜大会を制した桜町は順当に勝ち上がり、決勝に駒を進めた。

決勝の相手は紫波第一。序盤10点を先行された桜町だが、徐々に地力を発揮して前半終了時点で27-29と2点差まで詰め寄せた。

エンジンがかかった後半は本領を発揮して一気にたたみかける。第3クォーターは24-6と紫波一を圧倒。第4クォーターも勢いをそのままに攻め続け、桜町は68-47で決勝を制し、10年ぶり4度目の優勝を飾った。

菅原暉主将は「昨秋の新チーム結成時から目標は全中出場。まずは、県大会を

突破できてうれしい」と笑顔を見せた。

昨夏、2年生主体で4強入りした桜町は、攻守にバランスの取れた全国レベルのチームだ。激しいディフェンスで相手に自由を与えず、ボールを奪うと一気に速攻に出て得点を重ねる。運動量が豊富な選手たちは、第4クォーターになってもスピードが落ちることはない。

強豪ぞろいの東北大会は、ロースコアのゲームが予想される。菅原主将は「選手個人の経験も、チームとしての経験も、全てが自信につながっている。どこが相手でも、どんな試合になっても、自分たちのプレーを貫き、必ず決勝に残って全中切符をつかみたい」と確固たる決意で前を見る。

市内の選手・チームの主な成績（敬称略）

陸上競技【男子】◇共通200㍉③岩淵誠（桜町）◇1500㍉▷1年①岩淵将生（中里）◇砲丸投げ▷1年③菊池竜大（興田）◇共通①畠山大知（室根）②後藤興大（一関一附）【女子】◇1500㍉▷2-3年②鈴木樺連（室根）◇100㍉障害▷1年③山口佐和（山目）◇砲丸投げ▷2-3年①菅原百香（一関）

ソフトテニス【男子】◇団体①山目◇個人①鈴木雄大・小野寺瑛司（山目）③星光一・萩荘歩夢（山目）【女子】◇個人③熊谷純花・菅原綾乃（桜町）

ソフトボール【女子】①藤沢
体操【男子】◇団体総合③山目◇個人総合①千葉天斗（山目）◇種目別▷床運動①千葉天斗（山目）▷あん馬①千葉天斗（山目）【女子】◇団体総合②山目
剣道【男子個人】②皆川真武（花泉）
競泳【男子】▷50㍉自由形①瀬川真輝（山目）▷100㍉自由形②瀬川真輝（山目）▷400㍉自由形②渡辺大将（山目）③井上裕貴（一関）▷1500㍉自由形①渡辺大将（山目）▷200㍉バタフライ③千葉悠生（山目）▷200㍉個人メドレー③伊藤健吾（桜町）▷400㍉個人メドレー②小野寺惇

（舞川）③伊藤健吾（桜町）▷400㍉リレー②山目▷400㍉メドレーリレー③山目【女子】▷50㍉自由形①千葉すみれ（山目）▷100㍉自由形①千葉すみれ（山目）③那須結夏（東山）
バスケットボール【男子】①桜町
卓球【男子】◇団体②山目③猿沢◇個人③菅原拓（山目）【女子】◇団体②花泉◇個人③伊東彩（興田）
バドミントン【男子団体】③千厩
柔道【女子個人】▷40㍉級②藤野沙璃南（千厩）▷48㍉級③鈴木佑美（千厩）▷57㍉級③菅原真紀（千厩）▷70㍉超級③岩淵超（千厩）



東北中学校体育大会女子ソフトボール

女王藤沢 ★2年連続3度目の全中へ
圧巻の連覇

Pick-Up

1 東北を連覇し、12年ぶりの全国制覇を目指す藤沢中ナイン/2 決勝郡山六戦で右越え本塁打を放つ熊谷優衣/3 堅守で本塁を死守する三浦真子/4 声を枯らして応援する父母らを抜きに優勝は語れない。試合後のハイタッチで喜びを共有/5 キレのある速球と多彩な変化球を制球よく投げ込む須藤志織は県大会、東北大会とフル回転。連覇の原動力となった

強い。本当に強い。

藤沢中が山形県南陽市で8月2-4日に開かれた「平成25年度東北中学校体育大会」（第40回東北中学校女子ソフトボール大会）で東北を連覇した。

岩手第一代表の藤沢は、3日の初戦でいきなり強豪上北（青森第2）と激突。大一番を4-3で制すると、2回戦では根白石（宮城第1）を6-2で退けた。

4日の準決勝は、本荘南（秋田第1）と対戦。後攻の藤沢は初回、安打や失策で先制を許すが、2回に須藤志織の左越え本塁打で追いつくと、3回には無死満塁のチャンスに熊谷優衣の強襲打で逆転。5回には志織が鮮やかなスクイズを決めて突き放した。守っては、エース志織が

キレのある速球と多彩な変化球で2回以降ピシャリと抑え、藤沢は4-1で本荘南を破り、2年連続6度目の全中出場を決めた。

頂上決戦は郡山第六（福島第1）と対戦。後攻の藤沢は1回、3番優衣の右越え本塁打で2点を先制すると3回には安打や失策で1点を加え3-0とした。5回には、2死一、二塁のチャンスにまたも優衣が中前に弾き返して4-0と試合を決めた。先発志織は6回まで郡山六打線をパーフェクトに抑える快投。完全試合を目前にした7回に長打を浴び、内野ゴロの間に1点を許すも後続を絶って堂々の完投。藤沢は4-1で完勝し、東北を連覇した。

那須野真尋主将は「先制されても焦ることなく、最後まで楽しくできた。優勝できて本当にうれしい。支えてくれた全ての皆さんに感謝します」とにっこり。

今年の藤沢は攻守にバランスのとれた好チーム。須藤志織、伊藤瞳のWエースと堅守で守り勝つ。打線は熊谷優衣を中心に上位から下位まで切れ目がない。ナインの多くは小学時代から全国を経験した精鋭たちで、大舞台でも動じない精神的な強さもまた、持ち味だ。

全国中学校体育大会は三重県津市で8月17日に開幕する。藤沢は、昨夏16強で敗れた悔しさをバネに、12年ぶりの日本一を狙う。